

(資料)

本多静六・森脇龍雄著 『天竜峡風景利用策』 (昭和三年五月伊那電気鉄道株式会社発行) の現代語訳
 Texts Translated into Modern Languages of "Usage Strategies of Landscapes in the Tenryukyo" in 1928

北原 穂香* 渡邊 ほのか* 齋藤 実咲* 小池 成美* 横関 隆登*
 Honoka KITAHARA* Honoka WATANABE* Misaki SATOH* Narumi KOIKE* Takato YOKOSEKI*
 *長野大学環境ツーリズム学部

【底本】

名称：『天竜峡風景利用策』

著者：本多静六・森脇龍雄著

刊行：昭和三年五月伊那電気鉄道株式会社発行

項数：二十一項

所蔵：東京大学大学院農学生命科学研究科森林風致計画学研究室

【作業方針】

見出しと全文を作成した。見出しは全文から抽出した。書き方向は、原文のとおり縦書きとした。一行あたりの文字数は、本稿の様式に適合させ変更した。字体は、現代の常用漢字体に統一した。踊り字については、現代語に組み直した。現代的な読み易さを加味の上、語尾を簡素な表現に改めること、長文に句読点を付加すること、など修正を施した。明らかな誤植は正当な表現に訂正した。なお、難読な漢字には、角括弧「」を附して読み仮名を示した。

【見出し】

緒言 世界文化に大勢の風景の利用

第一 天竜峡風景探勝法

一、溪谷の中より兩岸の風景を觀賞する利用法

二、兩岸より溪谷の美を觀賞する利用法

(イ) 溪谷に沿った峰通りの道

(ロ) 溪谷の探勝道路

第二 局部の施設その他注意事項

一、天然植物園

二、天然式鹿園

三、パノラマ台

四、道

五、植樹帯

六、御富士山の赤松及び雑木の林

七、龍角峰

八、今村公園

九、龍東線県道

十、溪谷の風景助長策

十一、釣遊び

十二、指導標

十三、休息所

十四、便所

十五、案内図

十六、天龍峽名物
付 老樹名木について

【全文】

緒言 世界文化の大勢と風景の利用

近年吾国の各都市を初め各地方に於いて、各種の運動競技熱勃興し、一般體育の旺盛になったと共に国民の衛生保健問題喧しく、延べて都市公園、市外公園、森林公園、国立公園の主張となり一方には林間学校、林間野営、登山、風景地探勝、其他一般野外生活の流行となり、山林、高原地、其他風景地の利用が著しく進んで来た。この事は平素私共が主張する健康第一主義の立場から見ても、非常に喜ばしく感ずる次第である。

抑も、私共が特に健康第一主義を主張するに至った所以は、今日世界文化の大勢が獨立自強を重んずるに至った為である。獨立自強とは、何事も他人に頼らず、自分で自分を始末して生きて行く事である。平素多数の人を使役し、他人の力に頼つて生きていた人、怠惰な人、或は病弱な人は、いざと云う時に非常な苦痛を感じず。彼の世界大戦、近くは関東大震災が良い教訓である又他方には、教育の普及により、各人が同等の人間であると言ふ事を自覚せる結果、人を使雇し難くなり、更に一方今日の民衆政治は労働者階級の生活を高めて、資本家階級の生活に近からしめんとするにあるを以て、總しての政策は、労働者の賃銀を高め、容易に他人を使役し能わざるに至りし事や、將又民衆政治、特に普通選挙により代議政治に於いては、勢い多数なる労働者階級に有利にして資本家階級に不利なる政治となり、特に今日思想界を風靡せる所謂社会政策なるものは、不勞所得を忌み、勤勞所得を謳歌する結果、従来如く大地主や大金持が不勞所得のみにて生活する事は漸く困難となるに至った。吾国に於ける小作問題や工場ストライキなども、已に此大勢に支配せらるる一現象なれば、今後は男女貴賤の別なく、大地主でも大金持でも学者でも貴婦人令嬢でも、或は筋肉的に或は精神的に、各々自ら相当に勤勞するの必要を感ずるに至りし事等、各種の要素が綜合して、愈々各人の獨立自強の必要を自覚せしむるに至った。然るに其獨立自強には身體が丈夫でなければ出来ない故、其必然の結果として健康第一主義となり、富よりも名誉よりも

芸よりも何ものよりも、各人の健康を第一義に置き、その健康の爲には総うる犠牲を辞せざるに至った。隨て私共は云う、今日の文化生活は獨立自強延べて健康第一主義なりと。

而して健康第一主義を實現せんには、病氣を治す医術よりは病氣に罹らぬ工夫を必要とし、其病氣に罹らぬ爲には、不断新鮮なる空氣を呼吸し、十分日光に浴し、新しい食物を甘く食うと云う三點より外にない事が理解されるに至った。之が爲に、各人は進んで野外生活、運動競技等に心を向ける様になった。又各地の風景地は、交通機關の發達と相俟つて、民衆の保健、休養、享樂の爲に利用せらるるに至った。

而して天然の山水風景は、實に其地方に天が與へた一大芸術品であつて、到底金力や人工では創造する事が出来ない。唯獨り造物主のみがよくするところのものである。

彼の一般美術品の如きは、天才的藝術家には如何様にも作出し得らるるも、此天然の山水風景に至つては、到底人工では作り出さるるものではない。加之、人種の相異、貴賤貧富の別なく、等しく之を享樂し得ると云うに至つては、幾多の美術品中、恐らく之に過ぐるものはない。隨て天然の山水風景を稱して、眞に貴重なる、最も偉大なる、世界的美術品なりと云うら敢えて過言ではない。殊に今日の學術上より見ても、天然の山水風景は天が其國に与へた宝である。否、世界人類の至寶なる故、一個人が之を占有し、或は之を破壊すべきものでは断じてない。何処迄も之が保存開発に努め、廣く世界に紹介し、以て世界人類が擧つて、之を樂しみ得る標にしなければならぬ。之は今日の吾々のなすべき義務である。

故に、かかる優れたる山水風景を有する地方の人々は、特に天與の恩恵に感謝すると共に、人類の義務として、進んで廣く之を世に開放紹介するの途を講じ、他方には之を破壊する事なき様保存維持に努める必要がある。

元來、天然の山水美は、如何に鑑賞するも決して消耗するものに非ざる故、成るべく廣く、成るべく多数の人に賞翫せしむるがよい。勿論、美を説くのは利を論ぜざるも、而る天然の山水風景は、巧に之を利用活用するに於いては、確かに巨大な生産資本と同様の働きをなするので、恰も幾百千萬圓を積んだ資本の如くに其地方を利用するものである。

それ故、欧米各国に於いては、常に到る處の山水風景の開発利用に努め、世人の遊覽に適する様各種の設備を施し、且これを廣く世に紹介廣告し、当に共地方の誘とするのみならず、多数の遊覽客を吸収する事により、間接に大なる利益を収めているのである。

日本と同様の国情を有する伊太利に於いては、其外來觀光客に依つて、年々莫大の収益を挙げているが、更に驚くべきは彼の端西で、同国は元來、アルプス山中に位する吾四国大の一小国で、氣候寒冷なる爲、從來共生産物極めて少なく、主として牧畜と林業とによりようやく生計を営み来りしも、今より三十四年来、巧に其明媚なる山水風景を利用し、山村水郷、到る處に遊園地や避暑地の設備をなし、盛んに外來の旅客を招致し、爲に近年は一箇年の來遊客費に數百萬の多きに及び、その結果年々數億万円の入金を得るに至り、今日では歐洲中實谷國の一として数えらるるに至つた。實に今日に於いては、瑞西の風光を知らざる者は、殆んど交際場裡に立たれざるの奇現象を呈するに至りし程、瑞西は風景上の權威者となつたのである。

此等は僅か一例に過ぎるも、其他亞米利加、加奈陀、獨逸、奧太利、佛蘭西、西班牙、英吉利等の各国が、国内の天然山水風景に富んだ地方には、何處でも交通施設、公園的設備を施し、同時に立派なホテル其他の宿泊設備を整へ、天然の山水風景を活用する事に努めている。

由來、欧米文明諸国にあつては、自己の職業に對する平常の活動と、時折の旅行とは、紙の表裏の如く離れるべからざるものになつており、宛も貯蓄は、即ち旅行の前提たるの風潮があつて、労働の後には必ず旅行し、自然の大風光に接して思をやり、來るべき活動に對する潛勢力養うを常としてゐる。實に一つの美風であつて羨望の至りと云うべきである。

最近に至り、吾国に漸次景勝地の利用策が講ぜらるるに至つた事は、寧ろ当然の趨勢とは云へ喜ばしき現象で、殊に此度伊那電気鐵道株式会社並に当地保勝會が天龍峡風景利用策を講じ、天下、奇勝天龍峡を廣く世に紹介せんとせらるるに至つたのは、實に時宜に適した好箇の企画であつて、深く敬服する次第である。

只本調査に際し、僅か一日間の調査で未熟の吾々には到底完き案の立て難しきを恐るるものなるが幸に伊那電気鐵道株式会社の伊原氏、生垣氏、其他当地有志

の方々懇切なる御案内と御意見に依り、又嘗て天龍峡を調査せられたる高遠出身漆山雅喜氏の意見をも参考して、茲に大體の案を得たる光栄を感謝する次第である。

第一 天龍峡風景探勝法

本天龍峡の奇勝は、夙に人口に膾炙し、北名天下に普し。その名の起りは、弘化四年、坂谷朗・公翁の天龍峡記に初まると云う。本天龍峡は實に花崗石の現はし得るべき奇勝の極致であつて、奇峰怪石、絶壁、巨石、或は懸瀉、碧瀉、其神斧の妙工怪しき迄に冴えわたり、之に接するもの、神韻のおのずから身に迫るを覺える。加うるに菊爵として兩岸に繁茂せる森林は、清冽玉の如き流水と相俟つて、益々神秘の威を深からしむるもので、千言万語到底其眞を得るべくもない。外人の之を賞して、ライン、ダニューブにも勝ると云うも敢えて一片のお世辞ではない。

かくの如く天然既に卓絶せる景勝地にあつては、徒らなる人工的加工は不要、不景物である。只この自然の一大芸術品を納めたる賽の鍵を興へ、以て一般民衆に天龍峡溪谷美の眞價を知らしむる事が最も肝要である。之には一つの鍵がある。溪谷の中より兩岸の風景を觀賞する利用法と兩岸より溪谷の美を觀賞する利用法とが之である。

一、溪谷の中より兩岸の風景を觀賞する利用法

天龍峡の眞の溪谷美は、之を舟で下つて始めて味わう事が出来る。一片の給舟に身を託し、兩岸の峻峰相對呀、奇巖相迫る中を下り、或いは深潭碧瀉に幽邃「ゆすい」情を掬し、或いは飛沫を浴びて激海を下り、其の男性的爽快さを味得するに非ざれば、天龍峡の眞の生きた溪谷美は分らない。それには誰もが容易に船に乗りえる様な設備にしなければならぬ。現在の和船は、金持ち文人等特殊の人には喜ばれるも、空船を上すに多大の日数を要する為、其の賃金高価であつて民衆的とはいえない。その為には、從來の船に變えるに發動機船又はプロペラ船等の遊覽船を以てし、自由に溪谷を上下しうる様にし、低価なる賃金を以て一般に利用せしむる様にする。ことに近い将来において水力電気工事の為、下流において一大堰堤築造の計画あるゆえ、それが完成の暁には、其の上流約三里の間は、急流變じて細長い一大湖水状のものとなり、樹木の緑の線と水の線とが相接するに至り一層の幽邃と雄大さを増すと共に、發動機船プロペラ船の上下も自由とな

り、船遊びには一層好適のものとなるであろう。只一部其の湖航困難なる激流には、突出せる各岩角より丈夫なるマニラ麻縄又は棕櫚繩を流し置き、次々と其細を頼つて湖航しうる様にする。細は竿先のトビで容易に引揚げて手にしうるものである。濁逸のライン河の激流部には鎖汽船なるものがある。これは急流中に鐵鎖を流し置き、汽船はそれを噛みつつ湖航する方法なるも、かかる方法は水汽船に適し、天龍峽の如き小船を用いるものには寧ろ前の流細を適當とするものである。しかし、電車或いは自動車との連絡切符、或いは定期乗船券等発売し、遊覧客をして便利に遊ばしめ、一日も長くこの地に滞在せしむる工夫が必要である。

荷遊覽船の繫留並に発着の場所として生島は適當な場所の一つである。また将来においては水力電気の堰堤までを一帶の天龍峽遊覽区域となし、其れまで水上即ち人工湖水上には上記の遊覽船或いは貸ボートの設備をなすは勿論、水泳場、水亭、養魚、各種の遊漁、其の他の水面並に水景利用の施設をなし、更に兩岸の山嶽や溪谷に關し夫々適當の設備をなし、野獸園、山林公園、山岳園等を作る必要もあるも、それ等は貯水池の出来上がった後に計画するが適當である故、今回の設計にはこれを省略するものである。只天然式鹿園については参考の爲後に述べることとする。

二、兩岸より溪谷の美を觀賞する利用法

即ち之は道路に沿つて溪谷の美を賞翫するものである。およそ公園或いは風景地において最も大切なものは道路である。路線の設け方如何によつて、鑑賞亭樂の氣分の大半が左右せられるといつて差支えない。

まず第一に必要な事は道路を回遊的に設ける事である。往々時に或る一つの道を行けば帰りに他の道を探る様にし、進むにつれ絶えず緩化があつて、行客をしてあぐましめざる様にすべきである。そこに公園道路としての特長があり意義が存する。しかるに現在天龍峽に遊ぶ者の多くは梶屋山、金比羅山を経て天龍峽公園に至る。しかし更に更に對岸の龍角峰の景を觀んとする者は、天龍峽公園より同一の道を引返し、姑射橋をくりて對岸に渡らなければならない。しかし龍角峰から再び同一の帰路によつて宿舎に帰るのである。之は適當の位置に橋を一つ架ける事によつて、容易に認遊的にする事が出来る。それには将来、天龍峽公園付近より對岸へ鐵道開通の念の鐵橋架設の計畫あるゆゑ、其の実現の場合に、鐵橋

に附屬せしめて其の一方の側に上流の方幅一間位余分に橋桁を出し、板橋を張り出し、以て歩行専用のものですればよい。これは早くより鐵道に交渉して置く必要がある。しかしそれまでは、現在下流の二三の箇所において行かれてゐる如く、比較的氣勢緩なる適當の位置に、對岸から對岸へ丈夫な針金を張り、それによつて船を渡す様にするも一案である。これの回遊道路の主なるものに二つある。

(イ) 溪谷に沿つた峰通りの道

姑射橋より梶屋山、金比羅山を経て天龍峽公園に至り、鐵橋により對岸に渡り、龍東線原道に出て、今村公園を通つて姑射橋に迎えるものである。このうち姑射橋の手前、しばらく倉田交地を通るが、之は鑑賞の氣分を大いにはぐる故、この部分はよろしく森林中を通る溪谷沿いの道を新設すべきである。

しかし、かかる遊覽地等の、探勝散策する為の歩道は、決して一定の幅にすべき必要はない。強いて一定にしようとするれば、自然、岩を切取つたりして風致を損傷する等の恐れがある。それ故、例えば見事に苔蒸した岩があつて、その上にツツジが咲いているという様な大切な所は、成るべくそのままにし、多少狭ければ一人で歩き、広いところは二人並んで歩けばよい。只危険な所は丈夫にしておいても風雅な手すり又は駒寄を作る必要がある。兎に角、同一幅員歩道を作るというのは風景地においては愚な事である。即ち大体四尺乃至一間幅を定むるも、工事の困難な所は二尺位でもよく、反對に工事の容易な所は六尺以上になつても差支えない。どこまでも自然の地形に従い、景色の良い所を通る様にし、成るべく変化多く、遊覽に飽かぬ様にする事が大切である。

又この道幅に制限を設けないという事は、道路の建設上、実費用に非常な影響を及ぼすので、最小限二尺位にして置くと、共費用が大変少なくて済む。又幽邃拘すべきところ、眺望特に佳良なるところ例えば垂竿、烏帽子岩、龍角峰、仙狀蟹、臨鷹崖芙蓉洞、烟々潭、樵無洞、浴鶴岩等、或はそれ等の觀賞場所へは特に支道を造り、分れ道には「此先何町、天龍峽十勝の一、何々岩、眺望佳し」などと記した指道標を立てて置く。此等の支道は幅二尺乃至四尺位で十分である。

又道路を強いて真直につけるのは避けなければならない。普通の道路は真直で平坦で、而も最短距離を選ぶのが原則であるが、風景地に於いては、真直な一本道であると、ずつと奥迄行つても其景色は同じことと云う觀念が頭に這入つてし

まう故、反対に成るべく長く曲った走蛇形に造るのが望ましい。之は甞に昇透しを防ぎ景勝地を廣く見せる許りでなく、光線に對する方向を發する偽色彩の變化を生じ、景の単調を破る效がある。

而して曲り角の道は、曲った角の中に樹木殊に下枝の上らない灌木類を自然状に密植し、突切り道の出来るのを防ぐ様にす。殊に電光状の曲り道を上下の道から見通せると、必ず突切り道が出る。突切り道が出来ていると、誰も本道を通らなくなり、その為其處の風致が荒らされる事になる故、かかる曲り角のところは餘程注意が必要である。

次に道の廣い所、眺望の良い所、涼しい樹蔭、或は清水の湧き出ている所等には腰掛を置き、休息の便に供する。この腰掛も成るべく自然的なのがよい。倒れた大木の上を少し削つたものなどは野趣があつて面白い。或は枯れた樹の根株を腰掛に利用するのも、周囲とよく調和してよいものである。併し、注文通りの所に樹が倒れていたり樹が枯れていたりする事は減多にあるものでない故、かかる場所には枯木や倒れ木を持って来て利用する。又適當な自然石のある場合にはそれを腰の掛けられる様僅かに加工して利用する。飽く迄自然との調和を考へて行つべきである。

(ロ) 溪沿いの探勝道路

これは現在船頭が船を曳いて上る時に歩く道を利用するものである。したがいてこれは普通の道路のごとき人工的のものとは全然趣を異にし、あるいは岩を攀「よ」じ、あるいは岩の間を這いつつ進むものである。しかしながら危険の恐れなきものでなければならぬ。すなわち現在歩けるところはそのままし、滑る様などところは少し岩を削つて足場を作り、又断崖の所等には大小の石を適當に置いて足場を作る。この場合露骨なコンクリートの使用は嚴禁である。もし水が出て石が流れる心配のあるところは、下の方をコンクリートで固めるのはよいが、外から見えない様にする事が絶対に必要である。

しかして、ところどころの峰通りの路と連絡するための支道を造り、どれからどれへ行くも自由にすべきである。要所要所に指導標を設ける事は同様である。

その他天龍峡公園等に食料その他のものを運搬するための自動車道路を設ける

は差し支えなきも、これは風景の利用には關係なく、ただ便利のためのものであつて、風景探勝のために必要なものは上述の二つである。

第二 局部の施設その他注意事項

一、天然植物園

天然に多種種の雑木が生えていて、しかも相當平坦な土地に、天然植物園を設け、当地方に生育すべきもので不足するものはことごとくこれを植え付け、こゝへ来ればこの地方全部の樹種を知り得るようになる。この度調査した範囲内においては、梶屋山一帯が適當と考えられるも、なおこれ以上に適當なところがあれば、そこに設けるに少しも異論ないものである。

その植え付け法は、現在の樹林はなるべくそのままし、空地を選んで自然的に植え付け、遊覽客をしておのずから森林内を散策する意向を生ぜしめ、その間に不知不識樹名を覚えしむる様にする。しかして各樹木には幅三寸五分長さ五寸位の亜鉛板に白ペンキを塗り、黒ペンキで俗名、学名、ラテン名用塗等を記し、これを歩道に向かえる目通りの高さに、直径三寸以上の大木には細釘で打付け、小木には鉄線で幹または枝に緩く吊し、鉄線の幹枝に縊「くび」れない様にして置く。なお特に老なるものあるいは貴重なる樹種には、名札の少々大なるものを用い、これにその樹の直径、高さ、材積等をも記して置く。

なお同一樹種の多数天生せる場所には、これを間伐してその間に不足樹種を植え付けべきも、初めの間はまずその樹下に植え付け置き、その活着安全となるを待つて上木を伐採する様にする。

また園内道路の両側の広場には腰掛等を配置して置く。殊に梶屋山にはツツジが多いゆゑ、雑草を刈つてツツジを刈り出す様にする。また四阿等も適宜配置するがよい。

二、天然式鹿園

将来堰堤ができ、利用範囲が増す時は、下流における適當な谷間に天然式鹿園を設ける。鹿園としては、南西または南東の山腹で、道路に沿つた一帯の樹林、特に松または雑木の林で谷水のある所等が適當である。なるべく断崖絶壁等で囲まれ、柵囲いなどしないで、そこに鹿が天然に棲息している様を造るのが理想であるが、もし必要な部分に柵囲いをしなければならない場合には、高さ七尺、下半

部は一寸目位の金網にし、その上には刺付き鉄條を四五本張り、六尺置位に縦に編んで置く。しかして初めは牡鹿一頭牝鹿三頭を放養する。然る時は数年にして数十頭に増加するであろう。食料は林内の雑草木の葉で、不足の場合には芋屑豆腐から、青木葉、雑草等を与え、また一週一回位食塩を与える。鹿園内は松の老林の下に中大の雑木を有する林相に導くのが望ましい。雑木の樹は、ハシバミ、カシ、ナラ、シビ、クヌギ、コナラ、アカチア、ネム、その他その果実や新芽を鹿が好む様な樹種を用いる。かかる野獸園を設ける事は、利用少ない土地を巧みに利用する一つの方法であるが、またかかる一寸した設備がいたく遊覧客の興を惹くものである。殊に子供が非常に喜ぶものである。なおこの区域を禁猟区にする事は勿論である。

三、バノラマ台

今村公園はこの付近での最高地である。さればここにバノラマ台を設備する。これは四阿風のもの設け、その天井または小壁の間、もしくは中央部備付の台の上に、周囲の表景見収図を描き(假令肉眼にて望見し得ずとも著名なる山水風物はその方向に一致せしめて併せ記入すること)名称を一々記入して、景と図と彼我対照して一目瞭然たらしめるものである。かかる趣好もまた遊覧者に特別の興味を起しむると同時に、児童に対しては地理教育の一助となるものである。

四、道

梶屋山を上下する現在の道は急峻に過ぎるゆえ、修築する必要がある。もし修築の余地なき時は、丸太を置き階段状にする。道幅も出来れば三尺位にしたいものである。

五、植樹帯

田尻稻荷付近は一面の水田で何等森林なきため、梶屋山と金比羅山との景色がここで中断された形になっている。これはやはり水田の前面に松、杉等の植樹帯を設け、両者の森林帯を続ける様にすべきである。これは対岸から眺めた時殊に必要な事である。もしこの水田を菑浦池等に利用する場合には、池の後方に密な植樹帯を造る。

六、御富士山の赤松及び雑木の林

天龍峡公園に隣れる御富士山の赤松及び雑木の林は公園に取り入れ、林内を手

入し腰掛等を配置して、林間道遙の地とすること。また将来は、後方の表畑をも公園地とし、ここに児童遊戯場またはグラウンド等を設けるは差し支えなきも、前と同様の理由により、この部分と現在の公園との境には、四五間幅の植樹帯を設ける事が必要である。

七、龍角峰

龍角峰は本峡第一の眺望絶佳の地である。この事を大いに宣伝広告し、遊覧客を是非対岸へ導く様にしなければならない。

しかしながら、ここから上流の方を遠望する時、部落、田畑等が露わに見え、峽が浅く感ぜられ、幽邃の感を殺ぐ事甚だしい。それゆえ、丁度これらを隠す位置に生長の早い樹木を植栽し、森林を仕立て一切の無風流なる俗物を視野から隠す様にし、いかにも仙境にある思いを起させざる事が大切である。なお下流の桑畑のある一帯の崖地にも、松、杉、檜等を植栽して桑畑を隠す様にする。

八、今村公園

今村公園から対岸を望む時、天龍峡公園を眼下に見下し得るも、天龍峡公園からこちらを眺めても、只一帯の森林で、どこが今村公園か分からない。それゆえ今村公園に招き用の旗を立てる。かくする時は、この旗を望み、あそこが今村公園で、あそこへ行けばバノラマ台もあるし眺望もいとい言うので、思わず遊覧客の足が向くと言つものである。

九、龍東線県道

龍東線県道は、最近山を削り新しく築造されたものであるため、山を削った跡の赤土が露出していて、対岸から眺めた時いかにも醜い。この赤土の部分には芝を張り、またツツジ等を植栽する。また新しく切った岩石が白く露出しているのは、硫酸アンモニア杯の液をかけると黒く錆びた色になる。

十、溪谷の風景助長策

溪谷の風景助長策として、溪谷の岩の隙間にはツツジを植栽し、また溪谷の森林中にはヤマザクラ、ヒガンザクラ、あるいはモミジ、ヤマウルシ、ヌルデ、ガマズミ等の風致木を植栽する。また下草は出来るだけ助長する様にす。現在でも峰通りの道路の両側の藪の中にはツツジ多きゆえこれらは刈り出す様にす。特にツツジの多い所には、なお多くのツツジを挿植してツツジの名所を作り、ま

た適当な所にヤマブキ、ハギ等を植栽してヤマブキの名所、ハギの名所を作り、各局部に特徴を發揮せしむる事が大切である。

しかしながら、かかる風景助長のため手を加えるに当たつても、天然にそこに桜が生えツツジが出来たと言ふ風に、自然的に植栽する事が必要で、いかにも人工を以てしたと言ふ感を与えない様にしなければならない。

十一、釣遊び

溪谷のある部分を遊覧客の釣遊びに提供する。溪谷のある部分を遊覧客の釣遊びに提供するためには、その区域内においては個人の川漁を禁ずる必要がある。

十二、指導標

道路の分岐点、その他迷い易いところに指導標を設け、また休息に適した所に腰掛、四阿を置く事は前述の通りであるが、これらの休息所には必ず屑箱を備え付け、付近を清潔に保たしめる。

十三、休息所

景色の優れた所、眺望の良い所に、營業的の茶店を置くのは厳禁である。かかる場所はまず第一に民衆に開放すべきで、腰掛、四阿等を設け、一般民衆に無料休息所として提供すべきである。

なお茶店には、すぐ眼につくところに定価表を掲げさすこと。

十四、便所

廻遊道路に沿つた所々に便所を設ける事が必要である。便所は岩陰とか樹立の蔭とかあるいは道路から一段下つた藪の蔭等に造り、道路から露わに見えない様にし、只立札でその所在を示す事とする。これらの適当な庇蔽物のない場合には、その周囲を常緑樹で植潰す。また茶店のある所ではその茶店の便所を公衆と共同に使用する様にするがよい。

十五、案内図

天龍峡入口の適当な所に、彩色入りの天龍峡全体の案内図を掲げ、主なる名所に至る距離等を記入して置く。

十六、天龍峡名物

天龍峡名物の發揮に努める。これは保勝会などで研究してやるがよい。名物は遊覧客を慰むる上、当地の紹介ともなり、また地方の經濟に資する事大なるもの

で、決して等閑に付し難きものである。

付 老樹名木について

当地方には老樹がなかなか多い。その著しいものを挙げれば、天龍峡駅付近のネズミサシの大木(目通周囲一丈一尺、高さ十五間余、村有、現在愛染明王を祀る)早稲田神社の杉(目通周囲一丈八尺)田丸の赤松(目通周囲一丈三寸)等がある。

由来、老樹名木はいずれもその他の由緒の深きを現わし、延べて愛郷心、愛国心の源をなすものである。人あるいは言わん、愛郷心などと言ふ、女々しくも一村一郷を愛するるとき小さな事は止した方がよい。吾々は愛国心でなければならぬ、宜しく日本帝國を愛せねばならぬと。言一理あるが、ときも実は然らず。彼の有名なベック博士の言葉にも「故郷の天然物に対する愛は美に愛郷心の根本にして、また延べて愛国心の淵源なり」と言われたることく、自分の一村一郷を愛する心のある人にして始めて完全なる愛国心が起り得るのである。愛郷心のないものに愛国心の起るべき理由がない。殊に老樹名木の多くは、数百年間または数千年間その地方と歴史を共にし、社会の栄枯盛衰、または英雄豪傑の興つたり倒れたりした年度は、子細にその木の年輪に刻みつけられ、真にこれが生きた記念碑をなすもので、最も能くその地方の歴史を連想する事が出来る。いわんや林業上、將來また一般植物学上においても、その木がその地方に適するや否や、いかなる大きさ、いかなる形状に生長するやと言ふ事を知る事、その外種々學術的研究上の標本としても、極めて必要なものであるにおいてをや。

人もしこれら老樹名木の下に立つて静かに思いを廻らさんが、春風秋雨霽暈霜能く寒暑霜雪と戦い、いわゆる不撓不屈、巍然として天に冲し、鬱乎「うっ」として繁茂せる森敵雄大なる美感に打たれ、敬虔「けいけん」の心油然として生じ、おのずから雄大崇高の感化を受けるであらう。しかして各地方の人民が、この雄大崇高なる感化を受ける事は、やがて雄大崇高なる国民、すなわちいわゆる偉大なる国民をつくる根源となるものである。これゆえにその地方における老樹名木は、ただにその地方の風致教上、はた學術上等に大なる利益あるのみならず、また実に偉大なる帝國の建設上必要欠くべからざるものである。

当地方におけるこれらの老樹名木を大切にせられん事を切に希望する次第である。

【後記】

自分と生きる時代の違う人間が、同じように美しいと感じる景観を作り出したことに感動した。(北原)

自然を生かし共生していくことは昔から変わらず、人として大切にすべきであり、忘れてはいけないことだと感じた。(渡邊)

本多静六が携わった公園の設計からはこだわりを感じた。(小池)

現代語訳をしたこの利用案を多くの人に読んでもらいたい。(斎藤)

本稿の位置付けは、別稿「本多静六と関連する長野県内の公園・温泉地・風景地の計画書の目録および現代的価値」に記した。併せて参照されたい。(横関)